

注・Word2Vec による簡易自然言語解析

晶子 「みだれ髪」



まず今野寿美（著）「24のキーワード」にある「みだれ髪」ドで読む与謝野晶子」にある「みだれ髪」のキーワードいくつかを AI で検証の上、自分なりの解釈と結び付けてみた。春から始めた。「晶子にとって春は色恋のもえさかる至福の一時であった」と著者の評。AI に「みだれ髪」を読ませ、春と関連深い語を出力した。数値は関連性の強度。

春 と の 相 関	
す る	0.988
見 る	0.988
ひ る	0.986
あ る	0.985
子	0.984
花	0.981
神	0.981
友	0.980
我	0.980
人	0.980

する、見る、ある、は、現実的即物的かつ行動的ということか。ひるは、真昼のひるであり、明るさ、堂々とした表舞台くらいの意味か。子は「その子二十歳」

のように当時としては新しい子の使用方
 法か。花は春や恋につきもの。
 神は、筆者によると師であり恋人であ
 った鉄幹。友は、友人かつ鉄幹との恋の
 ライバルであった山川登美子か。我は、
 今まさに、自分が春の真ただ中にある
 ということ。特異なのは神 || 鉄幹と友 ||
 山川登美子との関係。神を分析してみる。

神との相関	
春	0.981
ひる	0.981
見る	0.980
ない	0.978
する	0.978
我	0.977
ある	0.975
恋	0.974
子	0.974
朝	0.973

堂々と神 || 鉄幹と不倫恋愛をつらぬいて
 いるようだ。歌集に罪を含む歌が8首あ
 るがAIで罪を分析すると『Key Error: "Key" 罪
 'not present'』と重要性は問題外と低い。な
 お夫婦仲は既に壊れ別居中だった模様。
 続いて、友であり恋敵の山川登美子を
 分析する。当時、新詩社中では、若い女
 性歌人を、しら+花の名、で呼んでいた

合 の 相 関	
春	0.955
友	0.952
見 る	0.951
恋	0.950
ひ る	0.949
ふ る	0.949
袖	0.949
我	0.948
す る	0.947
君	0.957

百 の 相 関	
あ る	0.966
す る	0.966
春	0.964
ひ る	0.964
そ	0.963
君	0.962
我	0.962
朝	0.959
ゆ	0.959
見 る	0.959

達 が 真 神 Ⅱ 鉄 幹 を 囲 む ハ ー レ ム ？ の 女 性 歌 人
 し む ？ 否 定 の 言 葉 が な い の が 恐 ろ し い 限
 り だ 。 続 い て 、 百 合 の 百 と 合 で あ る 。

し ら の 相 関	
ひ る	0.977
春	0.976
あ る	0.975
子	0.972
見 る	0.972
人	0.970
我	0.970
恋	0.969
な い	0.969
神	0.968

模 様 。 晶 子 は 、 し ら 萩 、 登 美 子 は 、 し ら
 百 合 、 と 呼 ば れ た 。 ま ず 、 し ら 。

神Ⅱ鉄幹、登美子、晶子、三角関係と
晶子の暗鬱たる嫉妬心を解くキーワード
がない。言われるほど晶子は嫉妬深くな
く、存外あっけらかんとしていたのか。
唯一、袖、の語に、不倫で好いた男を
争っている影や暗喩を感じる。筆者の乏
しい歌の知識なら額田大君の「君が袖ふ
る」である。

悔いますなおさへし袖に折れし剣つひ
の理想の花に刺^{とげ}あらじ

だが、こういう歌を見ると倫理に反す
るなど後ろめたさはやはりない。もつと
も、ライバル登美子Ⅱ白百合が、登場す
る歌が、ざっと見て十二首もある。晶子
自身Ⅱ萩の歌は四首しかない。自惚れて
いない、白百合は強敵だった模様。

今宵まくら神にゆづらぬやは手なりた
がはせまさじ白百合の夢

みだれごちまどひごちぞ頻なる百
合ふむ神に乳おほひあへず

百合の花わざと魔の手に折らせおきて
拾ひてだかむ神のころか

百合にやる天の小蝶のみづいろの翅はねに
しつけの糸をとる神

不思議なのは、神||鉄幹も晶子も登美
子も、とてもオーブンに思えること。特
に、晶子と登美子はライバルでもあった
が固い友情もあったように見える。

もっと不思議なのは教師時代から女子
生徒に手を出しては問題を起こす、女癖
が悪く生活力がなく稼ぎのないダメンズ
鉄幹に、当時の才女美女たちが夢中にな
ったことだ。人を引き付ける何かがあっ
たのだろうか？そこから逸材や傑作が花
開くのであるが不思議である。

承知のように晶子は並外れたバイタリ
テイで、後日、スランプで堕ちた鉄幹を
尻目に子育て生計維持に大奮闘しなけれ

ばならなかった。しかしながら良妻賢母に完全に転じたのではない模様だ。

永畑道子（著）「夢のかけ橋―晶子と武郎有情」についてAmazonの書評欄を参考にすると鉄幹と夫婦仲が冷えていた頃、有島武郎との恋が始まり

うす白く青く冷たき匂ひする二人が中の恋の錆かな

やがて恋は燃え盛るが

火の山もおさへ波をも鎮むべし恋しきことをいかがすべきぞ

一線を越えることもなく晶子は引き返し

君亡くて悲しいふを少し越え苦しと云はば人怪しまん

有島の自殺後、深い悲しみに、くれた模様。生涯、恋にもがき苦しむ官能の大歌人、まさに、ここにありである。

秋との相関	
する	0.995
ひる	0.995
ふる	0.994
ふるさと	0.994
ある	0.994
友	0.993
なる	0.993
思ふ	0.993
女	0.993
へる	0.993

啄木「一握の砂」のキーワード分析である。啄木、普通に考えれば、漂泊の薄幸短命歌人である。(借金と女好きと虚栄心とナルシストはとりあえず脇に置いて)ざっと読むと、秋、夜、雨、風、汽車、窓、かなしみ、と頻出。北日本を転々とする秋、雨風が容赦なく夜汽車の窓にあたる。故郷を追われ新聞記者や小説家で生計を立てる夢も頓挫。そのかなしみを癒すため酒をすする、そんなイメージか。AIに読ませる。

啄木「一握の砂」



汽 車 と の 相 関	
す る	0.992
な る	0.992
来 る	0.991
し か る	0.991
日	0.991
思 ふ	0.990
夜	0.990
か な し い	0.990
あ る	0.990
へ る	0.990

風 と の 相 関	
秋	0.993
す る	0.993
ひ る	0.992
ふ る	0.992
な る	0.992
思 ふ	0.992
友	0.992
あ る	0.992
来 る	0.992
日	0.992

雨 と の 相 関	
す る	0.999
秋	0.989
ひ る	0.988
女	0.988
夜	0.988
来 る	0.987
思 ふ	0.987
友	0.987
へ る	0.987
日	0.987

夜 と の 相 関	
ひ る	0.995
す る	0.994
ふ る	0.994
な る	0.994
思 ふ	0.993
友	0.993
秋	0.993
あ る	0.992
女	0.992
へ る	0.992

（迷い？）が多い。考えるより行動の人
 ワードが出てこないのが苦しい。思ふ
 肯定感、喜び、希望を見出す言葉、キ

酒との相関	
ひる	0.991
する	0.991
ふる	0.991
日	0.990
思ふ	0.990
秋	0.990
こと	0.990
ける	0.990
旅	0.990
来る	0.990

かなしみとの相関	
する	0.987
来る	0.987
思ふ	0.987
なる	0.986
窓	0.986
へる	0.986
ひる	0.986
友	0.985
ゆく	0.985
時	0.985

窓との相関	
する	0.994
なる	0.994
へる	0.992
ひる	0.992
ところ	0.992
日	0.991
ある	0.991
かなしい	0.991
夜	0.991
時	0.991

には、なれなかつたのか。友、も、頻出。
ひよつとして、友達が、救い、希望だつ
たのだろうか。この暗さは、うつ病だつ
たという説もある。うつ状態のとき、否
定的な歌が、どさと湧いたのだろうか？
知人、数名に意見を聞いたら、貧乏、
金欠によるとの声がほとんど！人は、金
がないと、悲しい、暗いのだそうだ。小
説家の夢が挫折したのも大きいとか。
また、北国の秋は、日暮れも早く、寂
しく寒さもすぐ来て、木枯らしが吹き荒
れ、厳しい気候になる。冬、根雪が積もる
となぜか安堵した記憶が、岩手の昔を知
る自分にはある。

ふがひなき

わが日の本の女等を

秋雨の夜にのしりしかな

わが抱く思想はすべて

金なきに因するごとし

秋の風吹く

くだらない小説を書きよるこべる

男^{あわ}憐れなり

初秋の風

父のごと秋はいかめし

母のごと秋はなつかし

家持たぬ児に

男との相関	
する	0.991
思ふ	0.990
なる	0.990
夜	0.989
ひる	0.989
ふるさ と	0.989
女	0.989
こころ	0.989
日	0.989
秋	0.989

女との相関	
ひる	0.994
する	0.993
秋	0.993
なる	0.993
ある	0.992
夜	0.992
ゆく	0.992
さ	0.992
ふるさ と	0.992
ふる	0.992

男と女の対比も不思議な結果だ。男は、
こころ、が、あり、思ふ、考えてばかり、

街とふるさとの対比も面白い。街には、
 いろいろなもの、可能性？がある。かつ、
 男同様、こころ、があり、思ふ、場所、
 友もいるが女がい。街は思ふ、前向、
 きに？思索する場所で故郷は感じる、一

ふるさとの相関	
ひる	0.994
秋	0.995
する	0.993
ふる	0.992
なる	0.992
女	0.992
へる	0.992
さ	0.992
友	0.992
夜	0.992

街との相関	
する	0.993
ふる	0.992
なる	0.991
こころ	0.991
ひる	0.991
あり	0.991
思ふ	0.990
夜	0.990
友	0.990
日	0.990

のようだ。生活力のない？甲斐性のな
 い？啄木自身か。朝日新聞社の校正職で
 は不足だったのか。

息つく場所か。なお、街Ⅱ都会には、季節性Ⅱ秋のかなしさや秋愁もないようだ。ふるさと、地方には、友、だけでなく、女、が、いるのである。啄木は地方の女性と相性がよかったか？（植木貞子の場合、彼女の啄木への片思いの説をとる）しかし、あり、がないので、田舎には、やはり、啄木が新しく求める肯定は、ないのである。

ひよっとして、街と友が、啄木の救いだっただのか？否、季節のない街で、可能性を生きるしかなかったのだらう。